

久留米広域 消防だより



救急最前線

救える命を確実に

救急搬送 全国最速を実現

(調査対象:政令市・中核市管轄消防本部)
(調査時期:平成30年)

久留米広域消防本部
26.3分

政令市・中核市平均
36.4分

出勤が多いのに
なぜ早いのかな

平成30年の久留米広域消防本部管内の救急出動件数は、21,016件で過去最多となりました。近年の出動件数は、28年が20,409件、29年が20,551件と年々増加傾向にあり、今後も高齢化の進行などにより、救急需要が増えることが見込まれます。

そうした中、予告指令による迅速な出動や現場に最も近い救急車を出動させるなどの取り組みにより、政令市・中核市を管轄する消防本部の医療機関への搬送時間平均が36.4分であるのに対し、当消防本部は26.3分と政令市・中核市で全国最速を実現しています。



全国最速5つの要因

1 出動予告指令

119番通報を受けて、災害場所がある程度わかった時点で「出動予告指令」を行い、詳しく聞き取りしている間に救急隊は出動準備を行います。このことで、「出動指令」と同時の出動を実現しています。

2 現場に最も近い救急車が出動

指令センターは、GPSで全ての救急車の位置を把握しています。

このことで、消防署に待機している救急車だけでなく、活動を終えて帰る途中の救急車など、災害現場に最も近い救急車に出動指令を行うことができるようになり、現場到着までの時間短縮を実現しています。

3 素早い応急処置

一刻を争う救急現場では素早い傷病者観察と適切な応急処置等が求められます。当消防本部の救急隊員は、医師から医学的教育を受けるとともに、日常の訓練や研修を通して医学的な判断力の向上に努めています。

4 迅速な医療機関選定

適切な観察で傷病者の状態をいち早く把握し、緊急度や重症度に応じて適切な医療機関を選定しています。

5 管内医療機関の充実

管内には、高度な救急医療を担う三次医療機関を中心に医療機関が充実しており、質、量ともに恵まれた環境にあります。このことにより、全国的に傷病者の受け入れが厳しい中でも、当管内では全国最速の搬送時間を実現できています。

三次医療機関：二次医療機関では対応できない、複数の診療科領域にわたる重篤な患者を担当。高度医療や先端医療を提供する病院

二次医療機関：入院治療を必要とする重症患者を担当。地域の中核的病院、専門性のある外来や一般的な入院医療を行う病院

一次医療機関：外来診療による医療を担当。日常生活での軽度なけがや病気に対する医療を提供する診療所など

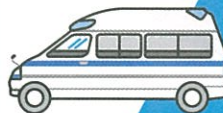
緊急性

高



三次救急

・緊急手術が必要なけがや病気



二次救急

・入院や手術が必要なけがや病気



一次救急

・入院や手術が不要なけがや病気

低

症状

重

軽



救える命を確実に

～救急医療最前線の医師の声～



久留米大学病院
高度救命救急センター
平湯医師

久留米大学病院高度救命救急センター

久留米大学病院高度救命救急センターでは、特殊な疾患など救命が困難な重症患者を受け入れるだけでなく、医師が救急現場に急行して迅速に診療を開始することで救命率を向上させる「病院前救護」にも力を入れています。

2002年に導入した福岡県ドクターヘリ事業に加え、2016年には久留米市及び久留米広域消防本部との合同事業として、久留米市ドクターカーの運行を開始しました。また、高度救命救急センターでは

多くの救急救命士が実習を行っており、救急活動の検証や救急現場での病態判断などに対し、医学的観点から病院前救護の質の向上に向けた指導を行っています。

県内一カ所の高度救命救急センターの役割である「筑後地域の最後の砦」、「救急隊員の教育機関」の医師として、最高のパフォーマンスを発揮できるよう、日々看護師や救急救命士とともにスキルアップを図り、全力で救急医療に立ち向かっていきたいと思っております。

聖マリア病院救命救急センター



聖マリア病院
救命救急センター
井上医師

聖マリア病院救命救急センターでは、「救命救急医療を通じ、断らない医療を推進する」を運営方針に掲げ、年間約1万件の救急搬送を受け入れています。中でも一刻を争う重症の患者さんを救うためには、病院前救護の質が重要となります。そのため、患者さんの元へ駆けつけ、病院に搬送する消防本部と協力して合同訓練や症例検討会、勉強会などを開催し、一人でも多くの命を救えるよう努めています。また、救急救命の現場では言葉にできないほどのプレッシャーを感じることもあります。患者さんを始めご家族の思いに応えられるよう技術の習得に努めています。現在は「集中治療専門医」や「外傷診療専門医」の資格取得に向けて頑張っています。

これからも院内各科のスタッフとともに、24時間365日体制の地域医療のセーフティネットを支える一員として、救える命を確実に救うために取り組んでいきたいと思っております。

救命率を高める4つの取り組み

1 全ての救急車が高規格救急車

管内の全ての救急車は、高度な医療資機材を装備し救急救命士が十分に活動できる高規格救急車です。



【高規格救急車】

2 全ての救急車に救急救命士が搭乗

救急救命士は、救急救命士国家試験に合格後、病院で研修を受けて専門的知識と技術を習得した救急隊員です。傷病者を観察し、処置を施しながら医療機関まで搬送する間の救護を担っています。



【救急救命士】

救急救命士が行える救命処置

○静脈路確保及び輸液(点滴)

静脈路確保は、静脈に針を刺し輸液や薬剤を血管内に投与するために行う処置です。

心肺停止や低血糖状態の傷病者に対し、薬剤を投与する経路として静脈路確保を行います。

また、大量出血や熱中症による高度な脱水など、ショック(瀕死の状態)が疑われる場合にも、血圧を維持するために血液の代用として輸液を行います。

○アドレナリン投与

アドレナリンは、再び心臓が動き出すのを補助する薬剤です。

心肺停止の傷病者に対して、認定を受けた救急救命士が静脈路確保を行った後にアドレナリンを投与します。

○ブドウ糖溶液の投与

ブドウ糖溶液は、血糖値を上げるための薬剤です。

重度傷病者で低血糖状態が確認された場合、認定を受けた救命士が静脈路確保を行った後にブドウ糖溶液を投与します。

○気管挿管チューブなどを用いた気道確保

気管挿管器具は、気道を確保するための資器材です。

心肺停止の傷病者に対して、認定を受けた救急救命士が気管内にチューブを挿入し人工呼吸を行います。このことにより、逆流物による誤嚥を防ぐなど、確実な人工呼吸が可能になります。



【薬剤投与セット】



【気管挿管セット】

※誤嚥: 唾液や食べ物などが誤って気管に入ること



【生体監視モニター】



【救急搬送支援システム
～オムニキャスト～】

3 傷病者の正確な情報を把握し素早く医療機関へ

生体監視モニターは、呼吸数・脈拍数・心臓の動きを観察する資器材です。

一般的な生体監視モニターでは、3誘導という方法で心臓の動きを観察しますが、当消防本部では、12誘導(体表面の12の異なる方向から心臓を観察)を採用しています。心臓の疾患が疑われる場合は、12誘導で観察して正確かつ詳細な情報を把握します。

重症の場合は、救急搬送支援システム(オムニキャスト)を活用し、生体監視モニターの内容に合わせて、車両の位置情報、カメラで撮影した傷病者の状況を高度救命センターなどに送信できます。

全国でも数少ないこのシステムで傷病者情報を送信することで、医師がいち早く受け入れ準備を整えるとともに救急隊への指示や指導・助言を行います。

その結果、救急隊が救急現場で適切な処置を行うことが可能となり、加えて医療機関到着後、直ちに救命処置を開始できるため、救命率の向上に繋がります。

4 救急医療に携わる医師が同乗するドクターカー

当消防本部の救急隊は、久留米大学病院高度救命救急センターで日々実習を行っています。実習中に重傷が疑われる事案が発生すると、救急医療に携わる医師と看護師が同乗する「久留米市ドクターカー」として出動します。これにより、救命率向上と後遺症の軽減に大きな効果を発揮しており、久留米市以外の遠隔地では、久留米大学病院に備わっているドクターヘリを要請することにより、同様の効果が得られます。



【久留米市ドクターカー】

救急車の適正利用に協力してください

急病や不慮の事故。起こってほしくないことですが、いつ自分や家族に起こるかわかりません。そのような時、すぐに救急車が駆け付けられるようにするためには、一人一人が救急車を正しく利用することが大切です。いたずらに救急要請が多くなってしまうと、遠くの救急車しか出動できない可能性が高まるため、現場への到着が遅れてしまい、救えるはずの命が救えなくなる恐れがあります。救急車は地域の限られた救急資源です。適正な利用に協力してください。



こんな時には
ためらわずに救急車



○主な症状を例示しています

頭

- 突然の激しい頭痛
- 支えなしで立てないくらい急にふらつく

顔

- 顔半分が動きにくい・しびれる
- ろれつがまわりにくく、うまく話せない

胸や背中

- 突然の激痛
- 急な息切れ・呼吸困難

おなか

- 突然の激しい腹痛
- 血を吐く
- 真っ黒い便が出る

手・足

- 突然のしびれ
- 突然、片側の腕や足に力が入らなくなる

24時間受付

救急車? 病院? 迷ったら

#7119

福岡県救急電話相談・医療機関案内

年中無休

救急車の利用や最寄りの医療機関についてアドバイスします。

または 092-471-0099

久留米広域消防だより vol.20
編集・発行/久留米広域消防本部
〒830-0003 久留米市東櫛原町999-1
TEL:0942-38-5151(代表)
FAX:0942-32-4603

ホームページアドレス
<http://www.fire-city.kurume.fukuoka.jp/fire/index.html>

QRコード

